

エコアクション21 環境経営レポート



運用期間 2025年1月～2025年12月



株式会社 工藤興業

作成日 2026年2月16日

【 目 次 】

表 紙

目 次1
1. 組織の概要2
・事業者名及び代表者名	
・所在地	
・事業の概要	
・事業規模	
・EA-21推進組織図	
2. 対象範囲3
・対象範囲	
・環境管理責任者氏名及び担当者連絡先	
・レポートの対象範囲	
・レポートの発行日	
3. 環境経営方針4
4. 環境経営目標5
5. 環境経営目標の実績6
6. 環境経営目標の取組結果とその評価7
7. 次年度の環境経営計画の取組内容8
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無9
9. 代表者による全体評価と見直しの結果9

1. 組織の概要

・事業者名及び代表者名

株式会社 工藤興業
代表取締役 工藤勝利

・所在地

本社 〒882-1411
宮崎県西臼杵郡高千穂町大字上野1126
TEL 0982-77-1144 FAX0982-77-1777
E-mail kudo-honsya@kudo-kg.co.jp

日向営業所：宮崎県日向市大王町2-50
土場：宮崎県西臼杵郡高千穂町大字上野34-1
資材置場：宮崎県西臼杵郡高千穂町大字上野1105-1

・事業の概要

設業年月日 1955年10月
資本金 3000万円

・建設業

・土木工事業 ・大工工事業 ・とび・土工工事業 ・屋根工事業
・タイル・れんが・ブロック工事業 ・鉄筋工事業 ・しゅんせつ工事業
・防水工事業 ・造園工事業 ・建築工事業 ・左官工事業 ・石工事業 ・管工事業
・鋼構造物工事業 ・舗装工事業 ・塗装工事業 ・内装仕上工事業
・水道施設工事業 ・さく井工事業 ・解体工事業

・産業廃棄物収集運搬業

許可番号 第4509037228号
許可年月日 令和7年11月09日
許可の有効期限 令和12年11月08日
産業廃棄物の種類 廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラスくず
コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類)
運搬車両の種類と台数 ダンプ 7台、キャブオーバー 3台
積替保管施設 :なし 面積:なし 保管上限:なし

収集運搬実績 378.64t 期間(2025年1月～2025年12月)

・事業規模

項目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年
売上高	百万円	1,617	1,244	1,217	1,383
工事件数	件	176	164	157	154
従業員数	人	72	70	71	76
床面積	m ²	323	323	323	323
資材・機材置場面積	m ²	3390	3390	3390	3390

2. 対象範囲

対象範囲 対象組織 全部署
 対象活動 建設業(事業概要と同)

環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

EA-21責任者 : 甲斐 武重
EA-21事務局 : 荒内 一郎
TEL 0982-77-1144 FAX0982-77-1777

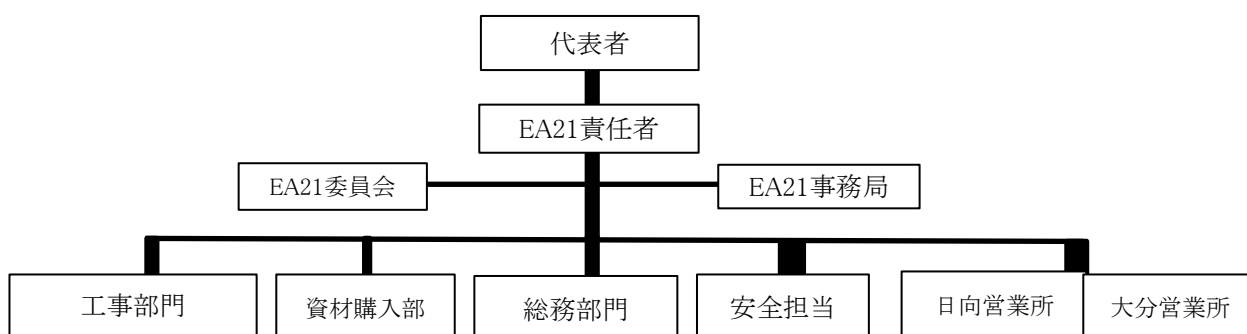
レポートの対象範囲

2025年1月～2025年12月

レポートの発行日

2026年2月16日

・EA-21推進組織図



※2025年12月閉所

3. 環境経営方針

環境方針

株式会社工藤興業は、地球環境保全が人類共通の最重要課題であることを認識し、当社の事業活動のあらゆる分野で、環境に配慮した行動に努め、広く地域・社会に貢献します

当社は、土木工事、法面工事、建築工事、廃棄物処理収集・運搬、総務、経理活動を通じて、環境経営マネジメントシステムを構築し、環境目標・環境活動計画を定め継続的な改善に努めます

関連する環境の法規制を遵守するとともに、行政機関・団体・地域等の要請に協力します

土木工事、法面工事、建築工事、廃棄物処理収集・運搬、総務、経理活動において

- ①二酸化炭素排出量の削減
(建物・空調・車両管理等による、電気使用量・燃料使用量の削減)
- ②一般及び産業廃棄物の削減及びリサイクルの化への推進
- ③節水活動による水使用量の削減
- ④環境に配慮した提案や工夫の促進
- ⑤ボランティア活動への参加
- ⑥ICT導入による作業の効率化

環境保全に関する啓蒙・啓発と、地域での社会貢献活動に努めます

この環境方針は当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します

制定 2012年1月5日

改定 2020年1月5日



株式会社工藤興業

代表取締役 工藤勝利

4. 環境経営目標

*日向・大分営業所の一般廃棄物・水使用量については、数量が一定のため、数値の把握のみとしております。

環境目標	実施区	基準値	年度別環境目標				
		(20年1月～22年12月)の 平均値+補正数値	2023年度 (2023年1月～ 2023年12月)	2024年度 (2024年1月～ 2024年12月)	2025年度 (2025年1月～ 2025年12月)		
1. 二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂)	全社	742,304.4	734,881.4	731,170.1	727,458.1		
省エネ	①電気使用量の削減 (kWh)	事務所	28,276.0	27,993.2	27,851.9	27,710.5	
		営業所	10,056.0	9,955.4	9,905.2	9,854.9	
		全社	38,332.0	37,948.7	37,757.0	37,565.4	
				基準比1.0%削減	基準比1.5%削減	基準比2.0%削減	
	②ガソリン使用量の削減 (L)	事務所	2,749.0	2,721.5	2,707.8	2,694.0	
		営業所	3,168.0	3,136.3	3,120.5	3,104.6	
		合計	5,917.0	5,857.8	5,828.3	5,798.6	
	③燃料使用量の削減 (L)	ガソリン	現場	52,574.0	52,048.3	51,785.4	51,522.5
		軽油	現場	228,188.0	225,906.1	224,765.2	223,624.2
	④灯油使用量の削減 (L)			基準比1.0%削減	基準比1.5%削減	基準比2.0%削減	
現場		1,254.0	1,241.5	1,235.2	1,228.9		
2. 廃棄物の削減							
①一般廃棄物の削減(kg)			基準比1.0%削減	基準比1.5%削減	基準比2.0%削減		
	事務所	469.0	464.3	462.0	459.6		
②建設副産物の再生・利用率の向上(%)	現場	95%以上	リサイクル率95%以上				
3. 水資源使用量の削減 (m ³)			基準比1.0%削減	基準比1.5%削減	基準比2.0%削減		
	事務所	964.0	954.4	949.5	944.7		
4. 環境に配慮した提案や工夫の推進	現場		経営計画を順守する				
5. ボランティア活動への参加	全社	4回/年	4回/年	4回/年	4回/年		
6. ICT導入による作業の効率化	全社		経営計画を順守する				

《改訂履歴》

- *2015.1.31・・・購入電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成26年度実効値(0.613)に変更しました。
- *2015.1.31・・・建設副産物の推進目標は再資源化率として(再資源化量÷総排出量×100=95%(宮崎県の目標値)以上としました。
- *2017.2.1・・・基準値を2014年度～2016年度の3年間の平均値とした。
- *2017.2.1・・・購入電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の平成27年度実効値(0.509)に変更しました。
- *2020.1.24・・・購入電力の二酸化炭素排出係数は令和2年1月環境省公表の九州電力調整後排出係数0.463としています。
- *2020.1.24・・・化石燃料の二酸化炭素排出係数は、ガイドライン2017年版と整合させました。
- *2020.1.24・・・化石燃料の二酸化炭素排出係数は、ガイドライン2017年版と整合させました。
- *2022.1.24・・・基準値を2020年度～2022年度の3年間の平均値とした。
- *2022.1.24・・・購入電力の二酸化炭素排出係数は2021年度の九州電力実効値(0.385)に変更しました。
- *2022.1.24・・・建設副産物は工事受注内容により再生利用率が大きく変動するため、法令に順じ適切な処理を実施する。
- ※二酸化炭素排出量については、LPGが全社CO₂排出量のうち0.04%程度のため、目標、実績に含めていません。

		新排出係数
購入電力	kwh	0.385
ガソリン	L	2.32
軽油	L	2.58
灯油	L	2.49

目標設定の条件

資材置き場において、地下利用水があるがメーター未設置のため数値目標には含まず節水活動を行うこととする。

5. 環境経営目標の実績

2025年1月～2025年12月までの実績及び達成率は以下のとおりです。

区分		範囲	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	合計	達成率	評価
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	目標	全社 (LPG除く)	183502.9	168582.1	177911.9	197461.2	727458.1	116.7%	○
	実績		172869.0	135763.2	168054.3	146559.5	623246.0		
電気使用量 (kwh)	目標	事務所	7930.1	5359.7	7200.0	7220.7	27710.5	90.5%	△
	実績		9382.0	6667.0	7960.0	6603.0	30612.0		
	目標	営業所	3129.4	2180.2	2146.9	2398.4	9854.9	107.2%	○
	実績		3353.0	2074.0	1915.0	1855.0	9197.0		
ガソリン使用量(L)	目標	事務所	628.2	643.9	676.2	745.7	2,694.0	125.4%	○
	実績		464.2	542.7	432.4	708.3	2,147.6		
	目標	営業所	790.8	738.1	710.4	865.3	3,104.6	112.5%	○
	実績		668.22	705.1	806.8	578.6	2,758.7		
	目標	現場	12916.4	11,804.2	13083.0	13718.9	51522.5	109.7%	○
	実績		11236.3	12,209.5	12039.5	11460.4	46945.7		
軽油使用量(L)	目標	現場	56195	52,359.4	54,551.9	60,517.9	223,624.2	118.8%	○
	実績		53478.5	39,215.9	51,723.2	43,745.5	188,163.1		
灯油(L)	目標	現場	403.1	0	0	825.8	1228.9	141.5%	○
	実績		520.5	0.0	0.0	347.8	868.3		
建設副産物の 再生・利用率の向上	目標	現場	法令に順じ、適切な処理を実施する。						
	実績								
一般廃棄物(kg)	目標	事務所	110.8	112.6	111.4	124.8	459.6	107.3%	○
	実績		110.7	100.5	99.8	117.3	428.3		
水使用量(m ³)	目標	事務所	222.7	240.8	243.0	238.2	944.7	112.5%	○
	実績		185.0	226.0	188.0	241.0	840.0		
環境に配慮した 提案や工夫の推進	目標	現場	経営計画を順守する					—	—
	実績								
ボランティア活動 への参加	目標	全社	年間4回					4	4
	実績		1	1	1	1	4		
ICT導入による 作業の効率化	目標	全社	経営計画を順守する					—	—
	実績								

※【二酸化炭素排出量の総量(液化石油ガスの使用量を含む)： 623,471kg-CO₂】

6. 環境経営目標の取組結果とその評価

取組項目	取組内容	範囲	取組結果とその評価
電気使用量の削減	①不在時及び休み時間は照明スイッチを切る	全社	不在時、昼休み等の消灯は徹底しておこなっています。 夏はエアコン使用時は扇風機との併用し、電力使用削減に努めてまいりました。
	②電気不要時の負荷を遮断する(パソコン・充電等)		
	③エアコン設定温度 夏:20℃～25℃の遵守		
	④エアコンや照明器具を定期的に清掃点検をする		
化石燃料消費量の削減 ・ガソリン ・軽油	①アイドリングストップによる省エネ運転	全社	取組活動は概ね順守していますが、年間を通して目標は達成できました。今後も燃料使用量を削減できるよう、努めていきます。
	②早めのアクセルオフ操作による惰性運行の多様		
	③重機の定期点検整備の実施		
	④重機のフルパワー操作の抑制(アクセル8割運動の推進)		
	⑤現場への相乗り通勤の推進		
一般廃棄物の削減	①廃棄物の計量と記録	全社	更にOAを活用・社内メールを積極的に活用し、少しでも削減できるように、努めていきます。
	②コピーはできるだけ縮小・両面コピーをしている		
	③分別の徹底で、再利用可能なものは再利用している(裏紙等)		
	④メール等を使用し、ペーパーレス化にしている		
	⑤顧客提出物を可能な限り、電子納品している		
建設副産物の再生利用の推進	①資材発注時は在庫や仕様書を確認して残余材発生を抑制する。	現場	廃棄物の分別をさらに促進させ、現場での余材を利用可能なものは再利用するように努めていきます。
	②分別排出およびリサイクルの強化(廃棄ボックス数を考慮)		
	③残在は持ち帰って再利用のために保管整理する		
水資源使用量の削減	①水道使用時のこまめな蛇口開閉	事務所	取組内容を行い、節水を継続する様、努めていきます。
	②定期的な漏水点検		
環境に配慮した提案・創意工夫の推進	①環境配慮型建設機械を使用する	現場	重機の入替を実施し、環境配慮型の建設機械及び車両を使用する様、努めていきます。
	②環境配慮資材を使用する		
	③現場濁水を処理する		
ボランティア活動への参加	①ボランティア活動への参加	全社	今後も地域ボランティアに積極的に参加します。
ICT導入による作業の効率化	①ICT機器の活用により、作業短縮化している	全社	最新測量機器や最新型パソコンを導入し、工事の短縮化に努めていきます。
	②工事情報システムの活用による、顧客往来の時間短縮化に努めている		



2025/4 町道ボランティア活動

7. 次年度の環境経営計画の取組内容

取組項目	取組内容	範囲
電気使用量の削減	①不在時及び休み時間は照明スイッチを切る	全社
	②電気不要時の負荷を遮断する(パソコン・充電等)	
	③エアコン設定温度 夏:20℃～25℃の遵守	
	④エアコンや照明器具を定期的に清掃点検をする	
化石燃料消費量の削減 ・ガソリン ・軽油	①アイドリングストップによる省エネ運転	全社
	②早めのアクセルオフ操作による惰性運行の多様	
	③重機の定期点検整備の実施	
	④重機のフルパワー操作の抑制(アクセル8割運動の推進)	
	⑤現場への相乗り通勤の推進	
一般廃棄物の削減	①廃棄物の計量と記録	全社
	②コピーはできるだけ縮小・両面コピーをしている	
	③分別の徹底で、再利用可能なものは再利用している(裏紙等)	
	④メール等を使用し、ペーパーレス化にしている	
	⑤顧客提出物を可能な限り、電子納品している	
建設副産物の 再生利用の推進	①資材発注時は在庫や仕様書を確認して残余材発生を抑制する。	現場
	②分別排出およびリサイクルの強化(廃棄ボックス数を考慮)	
	③残在は持ち帰って再利用のために保管整理する	
水資源使用量の削減	①水道使用時のこまめな蛇口開閉	事務所
	②定期的な漏水点検	
環境に配慮した提案・創意工夫の推進	①環境配慮型建設機械を使用する	現場
	②環境配慮資材を使用する	
	③現場濁水を処理する	
ボランティア活動への参加	①ボランティア活動への参加	全社
ICT導入による作業の効率化	①ICT機器の活用により、作業短縮化している	全社
	②工事情報システムの活用による、顧客往来の時間短縮化に努めている	

8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は担当者が常に日建連等のHPで改正等の確認をしています。
尚、関連法規制の遵守状況確認を毎年1回実施しており、違反はありませんでした。
又、関係当局からの指摘や、地域住民からのクレーム及び訴訟もありませんでした。

法規名	該当する要求事項	評価
廃棄物処理法	委託契約の締結	順守
	マニフェストの交付、保管義務	順守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書	順守
	多量排出事業者 計画書、実施書	順守
	保管場所の掲示	順守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	順守
	必要事項を都道府県知事に届け出	順守
	分別解体、再資源化促進、再資源使用	順守
大気汚染防止法	計画書の提出	該当なし
	解体工事時の措置	該当なし
フロン排出抑制法	簡易点検の実施	順守
浄化槽法	法定検査の実施、記録の保管	順守
消防法	機器点検の実施	順守
	危険物取扱者の選任	順守
	定期点検の実施及び記録の保管	順守
	地下タンクの漏洩検査の実施	順守

9.代表者による全体の評価と見直し・指示

国の働き方改革で、残業時間の上限規制が施行されて、現場での作業時間が減り、特に軽油使用量が減った。裏を返すと作業量低下と人件費は反比例していることから、なお一層の作業効率化を図っていかなければ利益の確保が困難になってきている。個々の力を最大限に発揮できる環境整備や教育、さらに今以上に自立性(自ら経営者の気持ち)をもっていかなければ、国が求めている働き方改革は絵に書いた餅にすぎない。